

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

お目覚めピアノで元気づくり 夜桜ライトアップコンサート

夜桜ライトアップコンサートが4月18日、高野町の円正寺で開催されました。

県の天然記念物に指定されている円正寺のしだれ桜の良さを多くの人に知ってほしいと、桜を守る会が企画。

ライトアップされ、幻想的な雰囲気の中、ジャズピアニストの河野康弘さん（東京都）がジャズを演奏しました。ジャズあり、笑いありのコンサートは、途中、尺八奏者の奥迫昭夫さん（東城町）もゲスト出演し、約20人の来場者は2人のセッションを楽しみました。

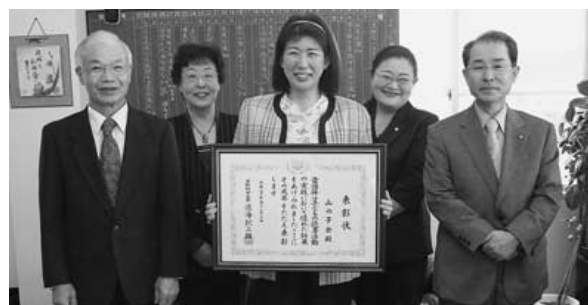
河野さんは、全国で眠っているピアノを目覚めさせ、楽しいコンサートを開催しています。この日も、廃校で使われなくなったピアノを使い、「古くなったピアノでも、壊れかけたピアノでも、こんなに生き生きと歌いだす。桜も人生も同じこと。まだまだ、がんばろう」と語りました。

円正寺のしだれ桜が枯死の危機に直面していることから、市は本年度、樹勢回復事業に取り組みます。



寺の境内で熱い演奏を繰り広げる

読書活動の推進に高い評価 「山の子会」が文部科学大臣賞



辰川五朗教育長（右）に受章を報告

東城町で本の読み聞かせなどを行っているボランティア団体「山の子会」が、平成20年度子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣賞を受賞しました。

山の子会は、昭和51年から約30年間、読書活動の大切さや楽しさを伝え、心豊かでたくましい子どもを育む活動を続けてきました。

長年にわたる地域の社会教育、読書活動の推進に貢献したことが高く評価され、今回の受賞となりました。

現在の会員数は34人で、週一回の小学校での読み聞かせをはじめ、紙芝居や布絵本、パネルシアターを作成し、保育所や公民館で上演しています。また、近隣の市町へ出向き、紙芝居や手作り絵本を披露したり、依頼に応じておはなし会を行ったりしています。

会員は、「この受賞を励みに、これからもがんばりたい」と話していました。

山菜料理で三河内の魅力を発信 楽笑座で「里山の春を食う会」

自慢の山菜料理を思い切り食べてもらおうと、比和町の三河内地域振興会による「里山の春を食う会」（楽笑座友の会主催）が5月9日、庄原市街地の楽笑座で開催されました。

昨年に続いて2回目で、振興会の女性部員が中心となり、前日から山菜を集め、山菜の天ぷらや和え物、たけのこご飯など21品目を調理しました。

500円で食べ放題とあって、開店前から長蛇の行列。一つ一つ山菜を確認しながら、お皿いっぱい料理を盛り付けていました。客の多くは「フジの花の天ぷらは初めて」などと話し、山菜料理が多くあることに驚いていました。

振興会の田中稔会長は「このイベントを通して、地域資源を再発見し、そして三河内地域の良さを多くの人に知ってもらいたい。今後、三河内に来てもらうきっかけになるのでは」と喜んでいました。



13種類の山菜の天ぷらが並ぶ

観光シーズンの幕開けを祝う 帝釈峡湖水開き

第41回帝釈峡湖水開きが4月29日、神龍湖で行われました。

絶好の観光日和となり、多くの観光客が見守る中で、今シーズンの安全を祈願しました。

その後、紅白の煙を吐きながら龍をかたどった龍船が登場し、湖上を泳ぐこいのぼりの中央にある大くす玉を割ると、観光客から歓声が上がりました。

トレイルセンターしんりゅう湖前広場では、地元鬼神太鼓やアマチュアバンドの演奏があり、観光シーズンの幕開けを祝いました。



煙を吐きながら龍船が登場



鬼神太鼓が熱演

草を楽しむイベント満載 総領で草レチック大会

ともいきの里とハイヅカ湖観交協会が4月29日、総領町稲草のなかつくに公園で、草を楽しむ草レチック大会を開催しました。

テーマは「草で遊ぼう！草を食べよう！草を歌おう！」。

草で遊ぼう！では、公園内で四葉のクローバー探しや、数種類の草花を全部探す草原の宝探しをしました。参加者は四葉のクローバーを十数本も見つかったり、七葉、八葉のクローバーを見つけたりしていました。

草を食べよう！では、食べられる山野草を摘んだ後、雑草を食う会が行われ、山野草の料理を楽しみました。

午後からは草笛コンサートや、靴や紙ヒコーキを飛ばす大会もあり、大人から子どもまで、草をキーワードになかつくに公園を満喫しました。



四葉のクローバーを探す参加者



靴飛ばしを楽しむ子どもたち

自然を大切にすることを育む

口南小が遠足で森林教室



紙芝居で森林の役割を学ぶ

口南小学校（児童77人）の遠足にあわせ、広島北部森林管理署の森林教室が4月25日、口和町の釜ヶ峰山国有林で行われました。

子どもたちは、森林の役割を紙芝居などで学んだ後、木工教室で慣れない丸太切りを体験したり、木の枝などを使って工作したりして、森林とふれあいました。

この国有林は、588本のアベマキの大木があり、西日本一の巨木林といわれています。

市は、森林浴公園として、草刈りや歩道の整備など地元自治振興区に管理を委託し、気軽に自然を満喫できるよう整備しています。

春の道後山高原を駆け抜ける

中国マスターズクロスカントリー大会



芝生のコースでいっせいにスタート

住民の力で美しいまちづくり

口和で美・クリーン運動

口和町で毎年恒例となっている「美・クリーン運動」が4月20日、各自治振興区を中心に行われました。

20年以上続くこの運動は、春と秋の年2回、各地域のごみを拾い、地域の環境美化に貢献しています。

この日は、道端に投棄された空き缶やペットボトルなどを拾い、リサイクルできるように分別しました。今回集められたごみは1,130キロで、昨年より120キロごみが増えていました。

場所によっては、地域で処理できない不法投棄もあり、参加者は「投げ捨てられるごみが減っていない」と嘆き、環境衛生の重要性和、この運動を続けていく必要性を再認識していました。



集めたごみを分別する地域住民

地域力を合わせて古代米の田植え

熊野むらづくり推進協が特産品づくり

5月18日、西城町熊野地域の自治振興区、神話の里熊野むらづくり推進協議会が「イザナミ米」の田植えを行いました。

イザナミ米とは、古代から食されている黒米のことで、熊野地域では古事記神話の里にちなみ「イザナミ米」と名づけ、特産品として栽培しています。

田植えは、熊野小学校隣の水田で地域の住民約30人が参加し、イザナミ伝説を歌った田植え歌に合わせ、一列に並んだ早乙女12人が手植えをしました。

イザナミ米は、自治振興区が経営する熊野神社前のイザナミ茶屋で、餅やせんべいなどに加工して販売しています。

自治振興区の岡田操会長は、「毎年、地域の人がたくさん集り、この田植えが続いているのがうれしい。ここで収穫した米から作ったもちも評判がいい」と話していました。



一列に並んで手植えをする

自然や農業の良さを次世代へ

詩集を出版し、母校へ寄贈

水越町でシイタケ農家を営む山口啓二さんが、詩集「ひろった石」を自费出版し、田園文化センターや母校の庄原実業高校などへ寄贈しました。

この本は、山口さんが19歳で南米アルゼンチンへ単身移民したころから綴った詩や童話、ショートストーリーをまとめたもので、「石」や「花」、「きの子」など、自然の中で感じたものを多く表現しています。

山口さんは「この本を通して、地元の子どもたちに自然や農業の素晴らしさを感じてほしい。これが交流のきっかけになれば」と話していました。



B6版、112ページの詩集「ひろった石」

都市住民と山菜を味わう

おっぱらの春を食べる交流会

越原みこと会が4月27日、ふれあいの里越原で、山菜を通じた交流イベント「おっぱらの春を食べる交流会」を開催しました。

町内外から参加した約30人は、地域に自生するヨモギを摘み取った後、もちつきや山野草料理作りを体験しました。

昼食には、タラや山ウドなど十数種類の新鮮な山菜がその場で天ぷらに調理され、参加者は舌鼓を打って、春の味覚を楽しみました。



ヨモギのもちつきを楽しむ参加者

つきたてのもちに笑顔

比和特産市場がイベント

比和町木屋原にある比和特産市場は、今年の営業を開始した4月20日、もちつきなどでオープンを祝いました。

店頭には春の山菜・新鮮野菜・加工品などが並び、朝8時からオープンを待ちわびていた町内外の買い物客や、吾妻山の観光客が立ち寄り、多くの人でにぎわいました。

イベントでは、もちつきやもちまきが行われ、つきたてのもちが入ったぜんざいが無料で配られると、「ねばりがあって、おいしい」と喜んでいました。

比和特産市場は12月まで、毎週土・日曜日の7時から正午に営業しています（1月～3月休業）。



買い物客でにぎわう特産市場